

# エゾマツ

ボランティア・レンジャー  
「エゾマツ会」

昭和62年6月1日

発行責任者 河村 千束

## 会報「エゾマツ」の発刊にあたり

エゾマツ会々長 河村 千束

ボランティア・レンジャー「エゾマツ会」が発足して半年が過ぎ、新緑の五月の季節となりました。会員の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

この間、役員の皆様にはなにかとご多忙にもかかわらず、本会の発足にご尽力され、軌道に乗ることができましたことを衷心よりお礼申し上げます。

さて年と共に自然志向の高まりの中で人々は自然界へと野外活動が活発化しているのが昨今の傾向であります。

このような情勢下で、私達の「エゾマツ会」はその目的である自然保護思想の普及と次の時代への北海道の自然保護と保全に努めるために会員の皆様とともに研さんして参りた  
考えております。

そこで私達は常に自然と人間との間の橋渡しの役割があることを認識しつつ自然保護思想の研さんのために、今回会報「エゾマツ」を発刊することにしました。あまり難しく考えないで、ありのままの現象をありのままの姿で語り合う場としてお互いに活用していただきたいと考えております。

ともあれ私達の「エゾマツ会」の活躍と発展は、会報「エゾマツ」によることが極めて多いことと思えます。お互いにこの会の発展のためにも会報「エゾマツ」を愛し育てていきたいものです。また、会報を通じ会員相互の親睦をはかり楽しい会であることを祈願し、会報「エゾマツ」の発刊のご挨拶といたします。

ボランティア・レンジャー「エゾマツ会」の発足によせて

北海道知事 横路孝弘

新緑の若葉がみずみずしく、そよ風にも自然の息吹きが強く感じられる季節となりました。

昨年、道が初めて実施したボランティア・レンジャーの研修会に参加された皆さんには、このたび、一層の研さんと相互の親睦を図るため、「エゾマツ会」を結成され、自主的にいろいろな活動に入られることになりましたことを心からお喜び申し上げます。

私達の住んでいる北海道は、広大な森林や湿原、高山植物の群落や原生花園などが、いかにも北国らしい雄大な景観を形づくっており、そこには野生の鳥や獣が数多く生息しています。

このように豊かで優れた自然は、先人たちが私達に残してくれたかけがえのない財産であり、これを大切に守り育て、将来の世代に引き継いでいかなければなりません。そのためには、何よりも私達が自然を愛し、自然に親しみながら、自然の役割や大切さを理解して行動することが大切です。

近年、都市化の進展や余暇時間の増大などに伴って、道民の皆さんの中に自然への関心が一段と高まり、道内の各地で自然観察会や探鳥会の催しが数多く開催されるようになりました。

自然に親しみふれあうことは、私達の生活に潤いをあたえ、心身の活力を培う源になるものです。

道では、自然とのふれあいを通じて、多くの皆さんに自然のしくみやその大切さを理解してもらうよう、関係者の皆さんと協力して、いろいろの自然とふれあう催しを全道各地で行っておりますが、これらをさらに広め、深めていかなければならないと考えております。このためには、道民の皆さんに対し、自然について易しく解説していただけるようなリーダーやアドバイザーを確保することがどうしても必要となっておりますが、その担い手の数は決して多いとは言えない現状にあります。

道では、昨年、皆さんのご参加とご協力を願い、リーダーやアドバイザーの役割を担っていただくことを期待して、ボランティア・レンジャーの第1回目の研修会を開催したのですが、今後も引き続き同じような研修会を開き、沢山のボランティア・レンジャーが育っていくように努め、皆さんの仲間を増やしていきたいと考えております。

北海道で最初にボランティア・レンジャーとなられた皆さんには、各地の自然観察会などで、何かとご苦勞をおかけすることと思いますが、自然と人間との橋渡し役として今後一層のご活躍を心からご期待申し上げますとともに、「エゾマツ会」のますますのご発展を祈願し、会報創刊のお祝いとさせていただきます。




昭和62年度「自然に親しむ集い」について

今年度、道内で実施される「自然に親しむ集い」の資料を道の自然保護課よりいただきました。ご覧になり参加いただいで感想など会報に述べていただければと思っています。

(予定)

実施日	実施場所	実施内容	主催者等	問い合わせ先
6. 7. 日	野幌森林公園	自然観察会	北海道	道自然保護課( 電話011.231.4111. 内線3896)
6.11. 木 7. 9. 木 9.10. 木	野幌森林公園	自然観察会	野幌森林公園事務所	野幌森林公園事務所公園利用課( 電話011.899.6455内線42)
8.23 日 10.18 日	野幌森林公園	森林観察会	野幌森林公園事務所 開拓記念館	
6. 3. 水 7. 9. 木 9.10. 木	登別市登別温泉	野外自然教室	( 財 ) 自然公園美化管理財団登別事業所 胆振支庁	胆振支庁林務課自然保護係( 電話0143.22.9131. 内線343)
6.21. 日 10.18. 日	増毛町ボンショカン沢	自然観察会	留萌市教育委員会 留萌支庁	留萌支庁林務課自然保護係( 01644.2.1511. 内線345)
7.19. 日	留萌市黄金岬海岸			
6. 中旬	利尻町仙法志大空沢	自然観察会	利尻町 利尻礼文サロベツ国立公園管理事務所	宗谷支庁林務課自然保護係( 電話0162.23.2510. 内線311)
7. 上旬	礼文町桃岩	自然観察会	礼文町 利尻礼文サロベツ国立公園管理事務所 宗谷支庁	
10. 上旬	浜頓別町クッチャロ湖	探鳥会	浜頓別町 日本野鳥の会道北支部 宗谷支庁	

7. 上旬	様似町アポイ岳	アポイ岳登山 動植物の観察	様似町 北海道国土緑化推 進委員会日高支部  日高支庁	日高支庁林務部自然 保護係( 電01462.2. 2211内線323)
7. 上旬	根室市春国岱	自然観察会	根室市 根室市教育委員会 日本野鳥の会根室 支部 根室市庁	根室支庁林務部自然 保護係( 電01532.3. 6131. 内線547)
10. 上旬	新得町トムラウ シ	自然観察会 (樹木とキノ コの観察)	大雪山国立公園緑 平管理官事務所 新得町 十勝支庁	十勝支庁林務部自然 保護係( 電0155.24. 3111. 内線375)
6.25.木	蘭越町字湯の里	自然観察会 (主として小 学校児童を対 象)	後志支庁 湯里小学校 北海道国土緑化推 進委員会後志支部	後志支庁林務部自然 保護係( 電0136.22. 1111. 内線338)
8. 上旬	東川町旭岳温泉 (勇駒別温泉)	自然観察会	東川町 大雪山国立公園勇 駒別管理官事務所 上川支庁	上川支庁林務部自然 保護係( 電0166.26. 1211. 内線380)
8. 上旬	上川町字層雲峽 (黒岳登山道周 辺)	自然観察会	上川町 大雪山国立公園層 雲峽管理官事務所 上川町公民館 層雲峽博物館 上川支庁	

6月7日(日)に道が主催する「野幌森林公園自然観察会」は、ボランティア・レンジャーの今年度の最初の研修会を兼ねていますので是非参加して下さい。

日 時 昭和62年6月7日(日) 10:40~15:00

集合場所 野幌森林公園大沢口駐車場

参加費 無料

交通機関 地下鉄新札幌駅より夕鉄バス—文京台南町行き—10:10 に乗車して終点で下車

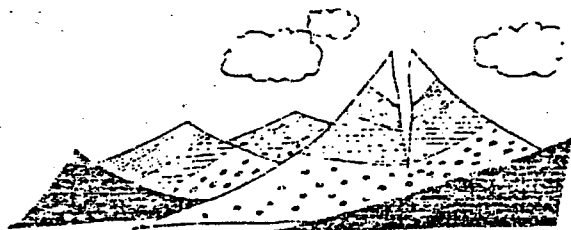
持ち物 弁当、水筒、双眼鏡、図鑑(鳥、植物)

山の魅力とはなんだろうか。

吉野 明彦

山の魅力とは何だろうか。北海道の夏の山で、私がいいと思っている点は、まず、その原始の匂いの多分にするような深い森林の中をさまよいること。静かな山の中では、都会の騒音を忘れ、荒々しい、未開の自然の中へ、一步一步入っていく人間生活の努力と自然との密接な暗示の働きがさまざまと親しくながめられるような北海道特有な風景であると思う。また中でも広大な大雪山国立公園ひとつにしても神奈川県とほぼ同じ面積なのだから、全体の広さを推測することもできよう。また、日本百名山の内に北海道の代表的な名山が、九座もあるということは、たいへんすばらしいことだと思います。

また一般登山の対象となる山が百二十座あるといわれ、野性的な自然が豊かな山を十分に味わうことができる。もちろん山には、それぞれの個性があり、また登る人の好みや、体力もちがっている。なんの特徴もない、平凡な山でも何回も登っているうちになんともいえない味が出てきて、登山者を魅了してしまう。そこで本州の山といえますと、古くから、信仰の山となっている山も多くある。今では山の八合目、九合目まで観光道路ができていいる山も多く見られ、山小屋では、寝具食事付きというところもある。日本の山-富士山-では、五合目から、山頂までに数十軒の山荘があり、一泊二食で四千元前後で泊まれる。頂上にはレーダー基地、神社、山荘、売店があり、水筒に雨水一杯500円もとられる。また登山路に平行してブルトナーが物資の輸送で一日二回も、五合目から、山頂まであがっていると聞いて、「これが日本の名山かなあ」となんともいえない気持ちで下山したことを今でも思う。そこで、北海道の山は奥く深いところにあり本州の山では求めても得られない、野性的な自然があり、それが大きな魅力になっているのではないのでしょうか。しかし、残念なことに、今の北海道では自然保護教育に対する取り組みが本州より遅れていると思います。最近、身のまわりから自然がどんどん失われている。多くの人々が、野外にでかけて行くようになった。十年ぐらい前までは、ハイキングと言われたのが最近では自然観察、探鳥会という言葉が多く聞かれるようになっておもしろい。自然を理解したリーダー的な人達が多く自然保護活動に必要なようになってくるのではないのでしょうか。



「今、こんなことをしています。」

山上 光一

皆さんお元気ですか。私はいま、こんなことをしています。もしよろしければ仲間になりませんか。そして、ご指導ください。

1. 屋上（コンクリート）でトマト、キュウリ、ナスビを栽培しています。発泡スチロールの箱と、肥料と、苗と、人手があれば簡単にできます。八月～九月には、毎朝食卓にこれらの野菜が上がります。
2. 自然木を使い「鳥の巣箱」作りをしています。製材所に行って不用になった木をいただいてきて作ります。「自然木くり抜き方式」・・・自分がつけた名前です・・・と言ってちよつと変わった方法で作っています。鳥さんたちには一般の家型のよりも、喜んで入居してもらっています。
3. 赤ゲラさんのアルバム（写真）を作っています。札幌のと真ん中にも赤ゲラさんが顔を見せてくれます。昨年は巣立ちまで撮ることができました。今年も来てくれるかな。
4. おんぼろ自転車（変速）で札幌市内を走りまわっています。特に、豊平川、真駒内、厚別方面へ双眼鏡と地図を片手にして出ています。季節の移り変わりをリラククスして楽しめます。
5. 酸性雨に関する文献と資料を集めています。特に中国の工業化と日本の酸性雨の関連性に興味を持っています。

よろしければ一緒にやってみませんか。どうぞご指導下さい。

(☎ 011-821-3080)



### 図書紹介コーナー

このコーナーは自然観察、自然保護等に関する出版物を紹介するコーナーです。今回は、千歳市で活躍している動物写真家の嶋田忠さんが推薦する本を紹介します。

- ① 「野の鳥の生態」仁部富之助著 —— 1種の鳥を追求することの大切さを教えてくれた。日本のフィールドワークのバイオニア。
- ② 「鳥と森と草原」周はじめ著（法政大学出版物局・1960） —— 20代で北海道に渡った著者が北の大地をテーマに完成させた写真集。私が北海道に移住したのも、この本に影響されている。
- ③ 「樹海に生きて」高橋延清著（朝日新聞社・1984） —— 北海道の東大演習林の名物林長だったドロ龜先生のユーモアあふれるエッセイ。
- ④ 「跳ベキタギツネ」竹田津実著（平凡社・1978） —— 1種類のけもの生態をここまでとらえきった写真集は、この本が出るまで、国内はおろか海外にもなかったのではないか。
- ⑤ 「たぬきの冬」石城謙吉著（朝日新聞社・1981） —— 明快で愛情あふれる文章は、読者をいつのまにか自然の世界に引き入れてしまう。

## 山へ行く楽しみ

山本 政司

軽登山を始めてから4年ほどになります。

月1、2回欠かさず山行を続けています。しかし、この話をする時、友人知人からはなんと物好きなどという目で見られがち、ひどい場合は面と向かって、何が楽しいのかと問いただされることも少なくありません。

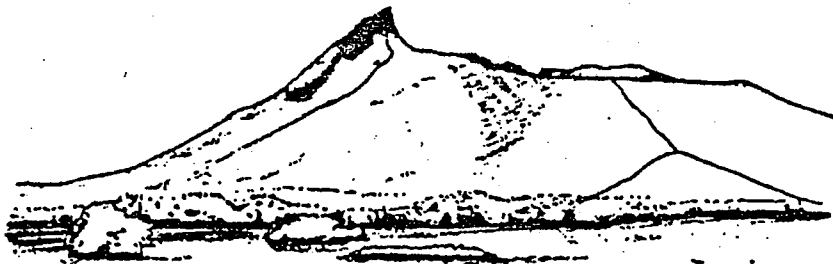
ところが、そうすると、こちらとしてもトンと答えに窮してしまうのだから困ったものです。どう説明すればよいものやら。

いまさら、“山がそこにあるから”と気どる歳でもないし、かといって何か特別の目的があるわけでもない。確かに考えてみれば物好きな話には違いありません。わざわざ重い荷物を背負って、早朝か深夜の電車に乗り込み、あげくの果ては坂道の延長のようなところをひたすら登りに行くにすぎないのですから。

ただ言えるとするれば、面倒な説明を抜きにして、黙々と体を動かし、飲みかつ食い、存分に眠ることもまた楽しみのひとつではあるということです。

結局、山で食べたり飲んだりするのが好きだから、という至極ミもフタもない説明にならざるを得ないわけで、友人からはますます奇異な目で見られ、再び困ったものだ、とつぶやくハメになるのです。

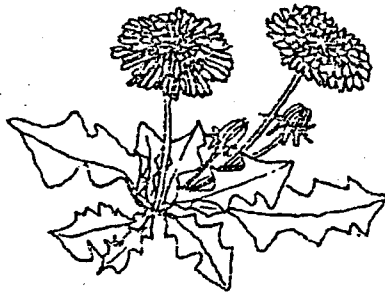
しかし、最近では、こうしたオヤジの姿を見ている中学生の子供たちが、ハイキングクラブに入り、山への関心を持ち始めたのだから不思議なものです。果たして単に親を真似しているだけなのか、あるいは子供なりにははっきりとした理由があるのか、いつか子供たちの本音を聞き出してやろうと、オヤジとしては秘かにその時を心待ちにしているのです。



会長の河村さんは、野幌森林公園の月例観察会で、千歳の五十嵐さんは滝野公園で、ボランティア・レンジャーをされています。幌加内の吉田さんと高橋は留萌の観察会に参加してきました。皆様の活動の様子をお知らせください



第2回自然観察会に飛び入り  
第2回自然観察会に自然  
解説員(ボランティア・レ  
ンジャー)の  
高橋 美智子さん  
吉田 真紀子さん  
兩名が特別参加してくれま  
した。特にわたしたちの不  
得手な植物に関して色々  
教えていただきました。参  
加者全員感謝いたしました。お  
ります。ボランティア・レン  
ジャーと言うのは北海道の  
自然公園等で開かれる自然  
観察会等で自然解説員とし  
て協力する人たちを言いま  
す。先生たちは昨年行わ  
れた第1回ボランティアレ  
ンジャー育成研修会で勉強  
された人たちです。今年も  
第2回の研修会が大沼国定  
公園で8月21日(23日  
まで開かれます。18歳以  
上の人ならだれでも参加で  
きます。定員50名です。  
参加したいかたは教育委員  
会社会教育課または留萌支  
庁林務課自然保護係までお  
問合せください。



編集後記

原稿をお寄せくださいました会員の皆様ありがとうございました。読んでいてそれぞれの方の人柄に触れととも楽しく編集作業ができました。植物に対する戸島さんの愛情とてもよくわかりました。私も先日罫寒の観察会で結局はクナカメバソウだったので図鑑を見るまでは新種ではと、ときどきしたばかりです。又五十嵐さんは野幌の観察会に野鳥や植物の見分け方を書いたパンフレットを作ってください、今回の似たもの較べも大小縮小拡大図を送ってくださいました。なお、図書紹介コーナーは紙面の都合上お休みします。大沼で多くの会員の方にお会いできるのを楽しみにしています。

皆さまからの原稿を募集しています。又情報コーナーとして何処で何を見たといったニュースものせていきたいと思ひます。たくさんの方の便りをお待ちしています。

宛先 〒064 札幌市中央区宮の森2条13丁目9-8-0

大友健